

東京第一陣が結審 建材企業は和解に応じよ

10月10日、アスベスト東京第一陣訴訟の東京高裁差戻し審が結審しました。提訴から15年、建材メーカーの道徳的ない抵抗により解決が長引き、原告の9割近い方が亡くなる中での結審でした。東京第一陣訴訟の東京高裁差戻し審が結審しました。提訴から15年、建材メーカーの道徳的ない抵抗により解決が長引き、原告の9割近い方が亡くなる中での結審でした。東京第一陣訴訟の東京高裁差戻し審が結審しました。提訴から15年、建材メーカーの道徳的ない抵抗により解決が長引き、原告の9割近い方が亡くなる中での結審でした。



原告、弁護団を先頭に入廷行進

報告集会では、闘争本部からの代表あいさつおよび弁護団からの報告がありました。事業主、一人親方を含む347人(原告総数)が建材メーカー12社に対し、和解による解決と補償基金への拠出を求められていることが報告されました。

暮らしはすでに限界 3駅で増税反対を訴える



訴える松本副委員長(中央)と大木税対部長(左)

10月6日、東京都連が主催するインボイス・大衆増税反対の宣伝行動が銀座・マリオン前、渋谷・ビックカメラ前、新宿駅西口で行なわれました。3カ所合計で、のべ11組合、82人、東京土建からは26人が参加しました。新宿駅では東京土建から、松本久人副委員長、大木栄一税対部長、吉川豊常任が発言。松本副委員長は、「今、食料品をはじめとした生活必需品が値上げをしているが、国は低所得者ほど負担の大きい消費税率を下げることは全く考えていない。加えてインボイスの導入は収入の少ない個人事業主、フリーランスにとって更なる増税となる。絶対に許してはならない」と訴えました。大木税対部長は、「政府は防衛費の増額のために、消費税を上げようとしている。今、庶民の生活を守るために、声を上げていかなければならない。みなさん、一緒になって参加してください」と呼びかけました。

公共を住民の手に 今は戦争か平和かの岐路

9月23日、銀座プロッサムを会場に、東京地方労働組合評議会(東京地評)の第22回大会が開かれました。冒頭、矢吹義則議長が「戦争か平和かの岐路に立つ情勢だ。労働者を守り、公共を住民の手に取り戻すようがんばる」とあいさつ。全労協議長からも「戦争前夜のよう。地評とスクラムを組んでいく」と力強い言葉がありました。

どこが問題か確認 屋外と解体の排除など

集会の終了と同時に、裁判所内で記者会見が行なわれました。判決日は追って通知されますが、裁判官は原告・被告双方に「この事件は和解による解決が望ましい」と和解を勧告しました。今後、建材メーカーの姿勢が問われる状態となっており、引き続きの運動で被害者全員の救済を求めて闘っていくことを確認しました。

【本部・書記・高見京子】建設アスベスト訴訟・第一陣控訴審結審に向けた原告団総会を9月30日に本部会館で開催しました。参加者は、東京・埼玉・千葉の原告団、弁護団、組合役員・書記等16人、東京土建は64人が参加しました。はじめに東京原告団を代表して企業原告の戸根山さん(足立支部)から力強いあいさつがありました。次に水口弁護士から、今回

判決のどこに問題があるのか説明がありました。①国に屋外作業を排除した問題と責任期間の問題、②メーカーについては企業の数、屋外作業と解体作業を排除した問題、責任期間について

の総会は、10月10日に東京高裁で第一陣差戻審が結審するため、①これ以上裁判を長引かせないために和解協議を進める必要がある、②解体改修作業者については和解ではなく判決を求める、③違法期間の始期と終期を変えるよう主張・立証する等の説明がありました。次に、井上弁護士から、最高裁判決を是正するために、

9月25日、中央社保協が主催し、医労連、全日本医連、保団連、東京土建が賛同する、保険証廃止に反対する宣伝を行いました。新宿駅南口で人通りの多い時間帯の17時から、新宿駅南口で訴え、ティッシュの配布し、署名を呼びかけました。全体で51人、東京土建からは23人が参加しました。

マイナ保険証NO 医療情報流出を訴える

は、「政府はマイナ保険証で医療データを吸い上げ、個人情報をおおきな企業に提供しようとしている。国民の命、健康、暮らしよりも、企業の新たな市場拡大を優先させる政策が今、横行している。この動きを止める必要がある。また、政府は軍事費の大幅増をすすめている。何としても阻止して、日本が戦争をする国となる流れを阻止しなければならぬ」と述べました。東京土建からは末浪明子書記が、「日本は国民皆保険制度の国だが、健康保険証を廃止して、任意のマイナ保険証に代えようとしている。これでは事実上のマイナ保険証強制で、政府は代わりに資格確認証を発行すると言っているが、それならば今の保険証をそのまま継続させればよい」と訴えました。

文京・豊島 区割変更で訪問 石綿国会請願に賛同



右から、鈴木隼人議員、賛同署名を受け取る宮本委員長(豊島)と野本書記長(文京)

【文京・書記・太田至豪記】衆議院小選挙区の区割変更により文京区と豊島区が新・東京10区となったため、豊島支部と合同で国会議員懇談を行いました。国保の育成強

化やアスベスト被害者の救済、建設産業の窮状などを伝え、これをきっかけに組合から国会議員へ、地域運動への協力につなげていきます。7月19日、豊島支部の宮本委員長と文京支部の高橋執行委員ほか3人で立憲民主党の鈴木庸介衆議院議員を訪問。10月に導入されるインボイス増税反対運動への協力を要請しました。これをきっかけに、豊島各界連・文京各界連の合同で毎月参加されるようになり、地域での共闘関係の強化につながりました。また9月19日には、豊島支

部の宮本委員長ほか3人で自民党の鈴木隼人衆議院議員を訪問。建設アスベスト訴訟の到達と課題を伝え、石綿給付金法改正の国会請願に賛同していただきました。さらに建材企業拠出の制度設計について詳しく聞きたいとの要望があり、後日説明させていただきます。



最高裁判決について説明を聞く参加者

間について



新宿駅南口での反対宣伝

た。